

第 1 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日 時 平成 17 年 9 月 28 日 (水) 5 校時
対 象 1 年生 (男 7 名 女 13 名 計 20 名)
指 導 者 菊池 睦子

- 1、主題名 思いやりの心 (思いやり・親切 2 (2))
- 2、資料名 ぼくのはな さいたけど (東京書籍 みんな なかよく 1年)
- 3、主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第 3 章 道徳の第 1 学年及び第 2 学年の内容の 2 「主として他の人とのかかわりに関すること」の (2) に「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。」とある。この内容は、人間関係を築くための基本的な姿勢を述べたものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持った児童を育てようとするものである。これは中学年の 2 (2) 「相手のことを思いやり、親切にする。」に発展し、高学年では、2 (2) 「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」に発展していくものである。

私たちが生活していく中でよりよい人間関係を築いていくには、思いやりが不可欠である。人は困っている人を見れば何とか力になってあげたいと思ひ、相手が幼い人や高齢者であればできるだけ手をさしのべてやりたいと思う。これは相手の身になって考え、その苦しみを感ずる共感や一体感が根底になっている。そして、その思いやりの気持ちに基づいて行われる具体的な行為が「親切」となる。しかし、一見親切のように見えてそうでないものもある。それは利害打算に基づいたり、自分の優越感から相手を哀れんで施したり、相手の気持ちも考えずに押し売りする独善的な親切などである。「親切」というのは、あくまでも相手と対等な立場に立ち、相手の身になって考え感ずながら相手を思いやる心情に基づいた行為でなければならない。

この期の児童は、まだ幼児期から抜けきっていない面があり自己中心的な考えや行動が多く見られる。そこで、この時期に思いやりの気持ちを持ち相手の立場に立ってその心情を思い、相手のことを自分のこととして受け止め親切にしてあげる行為を通して、身近な人とのよりよい関係をつくりあげることが、今後望ましい人間関係を築いていくために大切であると考えられる。

(2) 児童について

明るく、素直な子どもたちである。2 学期になり学校生活にも慣れ、行動の範囲が広がりとくさんの友達と関わる機会が増え、他の人の立場を認めたり理解したりすることも徐々にできるようになってきた。忘れ物をしている友達に用具を貸してあげたり、教室がわからず困っている友達と一緒にいってあげたりと親切な行為もしばしば見られるようになってきた。ただ中には、些細なことで言い争って喧嘩をしたり、意地悪をしたり、気分によってしなかつたりと自分の都合や周囲の状況に左右されることが多く、ほめられるからやるといった動機で行ったりする傾向もある。また、縦割り班などで上級生から親切にしてもらった経験も多いが、それに気づかず当たり前のよう感じている子も多い。

このような児童に、自分が親切にした時の気持ちを思い出させることにより、親切にすることの大切さに目を向け考えさせたい。よりよい人間関係を築いていくためには、相手の立場に立って励ましたり行動したりすることが大切であることに気づかせ、身近にいる幼い人や高齢者にも視野を広げ、相手を思いやる心を育てていきたいと考える。

(3) 資料について

主人公の子ぐまのトトは、日曜日の母の誕生日のお祝いに花束をプレゼントしようとしてと花を育てていた。その花をもぐらのモイラが病気の母のために摘んでしまう。はじめは「とっちゃだめ。」といていたトトだったが、モイラの花をとったわけを聞いてかわいそうになりあげることにした。すると、花はとうとう 2 本になってしまった。日曜日、最後に残った 2 本の花のうち 1 本をモイラに残して、トトは 1 本だけの花を母にプレゼントするが、急に悲しくなり泣いてしまう。わけを聞いた母は「あなたのおはなで ふたりのおかあさんがよるこんでくれたんですもの。すてきなすてきなおはなをありがとう。」ととても喜んでくれたという内容である。

トトの温かい思いやりの気持ちが文章全体にあふれ、児童に感動を与えることは必至である。トトのモイラに対する心づかいや行為を通して、やさしいところで人に接することの良さ、思いやる心の大切さを考えさせるのに適した資料であると考えられる。

(4) 指導の態度

「気づく」段階では、登場人物について話し合い、資料への興味を持たせたい。「見つめる」段階では、「大きな花束にして」の語句を手がかりにしながらとくさんの花束をプレゼントするつもりでいるトトの計画もおさえておきたい。また、トトが秘密の花畑を作ったわけを説明し、思い込めて花作りをしているトトの気持ちを考えてほしい。「花をとっちゃだめ」といていたトトがモイラの話の聞きながら心情が変化していった理由をおさえながら、役割演技をさせることにより資料に浸らせトトの気持ちに共感させたい。「つかむ」段階では、モイラのことを考え行動するトトの気持ちに浸って考えられるようにさせたい。そして、お母さんの言葉により自分の行為が認められ満足感を抱き喜びが増していったことを感じとらせたい。「広げる」の段階では、日常の場面で親切にしてあげた経験について話し合い、その時どんな気持ちだったかを発表させ、身の回りで行われている快い経験を交流させたい。「まとめる」の段階では、親切についての話を紹介し「自分もやさしくしてあげよう」という思いを持って終わりたい。

5、本時の指導

(1) ねらい 身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開の大要

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
気づく3分	1、登場人物について話し合う。 ○今日のお話には、「トト」というこぐまさんが出てきます。		・登場人物について紹介し、資料への興味・関心を持たせる
見つけ	2、資料「ぼくのはな さいたけど」を読み、感想を発表し学習課題を確認する。 ○お話を読んで、いいなあと思ったところはどこですか。	・トトはモイラにおはなをあげてえらいな。 ・1本のお花でもお母さんに喜んでもらえてよかった。 ・トトは1本お花を残しておいてくれてやさしいな。	・場面の絵を使い状況を把握させる。 ・トトのどんなところがいいなあと思ったのか具体的に話させたい。 ・トトの気持ちが変わっていったところを取り上げ、課題へとつなげていきたい。
めぐる	3、「トト」の気持ちを中心に考え、話し合う。 ○トトは、どんな気持ちで花畑を作ったのでしょうか。 ○トトは、モイラの話聞いてどんなことを思ったのでしょうか。	・たくさん花が咲くといいな。 ・お母さんをびっくりさせたいな。 ・お母さんを喜ばせてあげたいな。 ・花が咲いたら大きな花束を作りたいなあ。 ・ぼくの花なのになあ。 ・病気のお母さんのためなら仕方がないな。 ・モイラがかわいそうだな。 ・ぼくもお花が欲しいけどがまんしよう。	・お母さんのために内緒で秘密の場所に花畑を作ったこと、毎日お水をあげて熱心に花づくりをし、やがて大きな花束を作ろうとしていることなどをしっかりとおさえさせる。 ・期待でいっぱいのお母さんの気持ちに共感させる。 ・大切な花を取られて犯人探しに意気込んでいたトトだったが、モイラの話聞いていくうちに心が変容していったことに気づかせる。 ・トトがモイラの話聞いている場面を役割演技させることにより子どもたちが資料に浸りながら考えやすいようにする。
つかむ	トトは、どんな気持ちで「1つ残しておくよ」と大きな声で言ったのでしょうか。	・ぼくはいいことをしたな。 ・ぼくは1本だけでもいいよ。 ・モイラが喜んでくれるといいな。 ・モイラもお母さんを大事にしてね。	・モイラのためにいいことをしたと満足している優しいトトの気持ちを感じとらせたい。 ・初めに考えていた大きな花束のつもりが最後には1本の花になってしまい、かなしくなって泣いてしまったトトだがお母さんの言葉によって、自分の言動が認められ「やってよかった」と満足感を抱き、さらに温かい気持ちになっていったというトトの心の変化に気づかせたい。
広げる	4、親切にした経験について話し合う。 ○トトのように、みんなが今まで困っている人を助けてあげたり、優しくしてあげたことはありませんか。それはどんな時ですか。	・忘れ物をして困っていた友だちに貸してあげた。 ・けがをしている友だちを保健室に連れて行ってあげた。 ・1人で遊んでいる友だちに「あそぼう」と声をかけてあげた。 ・わからないときにやり方を教えてあげた。	・学習時間だけでなく、休み時間などいろいろな場面もあれば出させ、「どんな時か」「どんな気持ちだったか」も詳しく発表させたい。 ・もし出ないときは、教師側からも事例を紹介し気づかせたい。 ・快い経験を交流させ、親切にすると親切をした人もされた人もお互いにいい気持ちになるということに気づかせたい
まとめ	5、教師の話聞く。		・これからもやさしくしようという思いを持って終わらせたい。

6、板書計画

お母さんに喜んでもらっているトトの絵

モイラに「のこしておくよ」と言った時のトトの絵

花を取ったモイラを見たトトの絵

秘密の花畑のお世話をしているトトの絵

ぼくのはなをさいたけど

ひみつ

おおきな はなたば

- ・ たくさんさくといいな
- ・ びっくりさせたいな
- ・ おかさんをよろこばせたいなあ
- ・ おおきなはなたばをつくりたいな

もくようび

ぼくのはなをとっちゃだめ

おかさんがびょうき すぐ
かれちゃうからなんどもつんだの

- ・ びょうきならしかたないな
- ・ モイラがかわいそうだ
- ・ ぼくの花なのになあ

にちようび

たんじようび

1つ のこしておくよ

- ・ モイラ おかさんをだいじにしてね
- ・ モイラがよろこんでくれるといいな
- ・ ぼくは1ぼんだけどいいからね
- ・ いいことをしたなあ

とっってもうれしいわ

- ・ おかあさんありがとう
- ・ わかってもらってよかったな
- ・ おはなをあげてよかったな
- ・ モイラもおかあさんもよろこんでくれてよかった

せれつに 1111

花畑の絵

7、資料分析

資料名
ぼくのはな さいたけど

(出典 学研 みんなのどうとく、1年)
ねらい 身近な人たちに温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を育てる。

場面	秘密の場所に花畑を作りお花の世話をしているトト	花が減っていった犯人がモイラだと気づき花をとったわけを知るトト	花畑に咲いている花を1つ残しておくトト
主人公の心の動きと外的状況	<p>期待 希望</p> <p>ひみつのばしょにはなばたけをつくったの。さいたはなぜんぶでおおきなはなばにして、おかあさんにあげるんだ。でも、これないしょだよ。</p>	<p>思いやり・親切</p> <p>優しさ 同情 残念</p> <p>「ぼくのはなをとっちゃだめ。モイラがかわいそうになつて、そのままはなをあげちゃった。花はとうとう2つになっちゃった。」</p>	<p>思いやり 親切</p> <p>喜び 充実感 満足感</p> <p>モイラのかおがうかんできた。「1つのおこしておくよ。」ぼくはおおきなこえでいった</p>
児童の反応	花が咲いたら大きな花束を作りたいな。おかあさんを喜ばせてあげたいな。おかあさんをびっくりさせたいな。たくさん花が咲くといいな。	ぼくもお花がほしいけどがまんしよう。モイラがかわいそうだなあ。病気のおかあさんのためなら仕方ないなあ。ぼくの花なのになあ。お母さんにあげる花だったのにな。	モイラ、お母さんを大事にしてね。モイラが喜んでくれるといいな。ぼくは1本だけどいいよ。ぼくは、いいことをしたなあ。
発問	トトは、どんな気持ちで花畑を作ったのでしょうか。	トトは、モイラの話聞いて、どんなことを思ったのでしょうか	トトは、どんな気持ちで「1つのおこしておくよ。」と大きな声で言ったのでしょうか。